

そらんぽ便り Vol.100

☎ 四日市公害と環境未来館 (TEL) 354-8065 (FAX) 329-5792)

サファリガイドの太田ゆかさんに 聞いてみよう!

アフリカの自然と野生動物のこと

今年開館10周年を迎える「四日市公害と環境未来館」は、3月23日(日)に南アフリカ政府公認サファリガイドの太田ゆかさんを招いて講演会を開催します。

太田さんは、大学在学中に南アフリカのサファリガイド訓練学校に入学。政府公認のサファリガイドの資格を取得後、2016年から南アフリカのサバンナで活動しています。

カバやサイ、ゾウやライオンなど、南アフリカの広大なサバンナに暮らす野生動物たち。大自然の中でたくましく生きる彼らは、密猟や地球温暖化など人間の活動によって絶滅の



サファリカーを運転する太田ゆかさん
(本人提供)

危機にさらされています。

太田さんはサファリガイドとして野生動物の魅力伝えるとともに、彼らを守る活動にも取り組んでいます。

講演会では、野生動物や海外で働く魅力などについてお話しいただきます。「動物が好き」「将来は英語を使って仕事をしたい」という小学生や中高生の皆さんにもお薦めです。

生物多様性を保全し、生き物が暮らす豊かな自然環境を守るために、わたしたちに何ができるかを一緒に考えてみませんか。

文化財さんぽ

☎ 文化課 (TEL) 354-8238 (FAX) 354-4873)

八風道を照らす常夜燈

皆さんは小牧町南の八風道沿いにある「^{かん}神崎の常夜燈」を知っていますか。八風道は富田一色町を起点に近江(滋賀県)へとつながる街道で、中世から江戸時代以降の近代まで商人が往来する道として栄えました。

この街道沿いの^{ごさろ}五差路(八風道・四日市道・千草道・^{いなべ}員弁道の交差点)の南東に、安政7(1860)年に建立された神崎の常夜燈があります。ここはかつて、保々・下野・^{あがた}県の村境であり、地方の道へとつながる重要な分岐点でした。当時は近江の行商人や伊勢・多



神崎の常夜燈 (小牧町)

度参りの旅人など、さまざまな人たちが往来し、周辺はたいへんにぎわったと思われます。

また、常夜燈の向かいの西角には、東面に「^{たひか}右田光ちくさ道 左四日市道」、南面に「^{たひか}右多度 左上海老」と記された高さ約1メートルの道標がかつて立っていました。現在この道標は神崎公園に他の道標と共に移設されています。

今もなお残る交通の要衝を訪ね、当時の人々の往来に思いを巡らせてみてはいかがでしょうか。